

# 東北大学放射線業務従事者 管理システム(開発中)の特徴

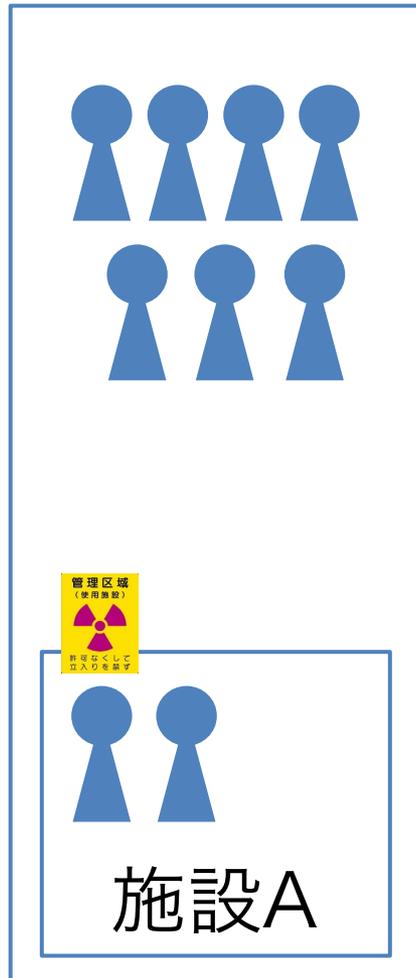
東北大学

サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター

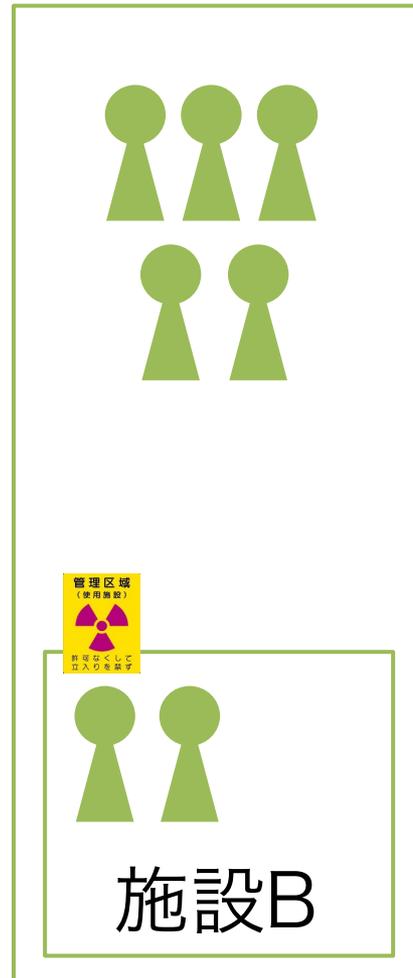
佐藤 和則

以前

部局A



部局B

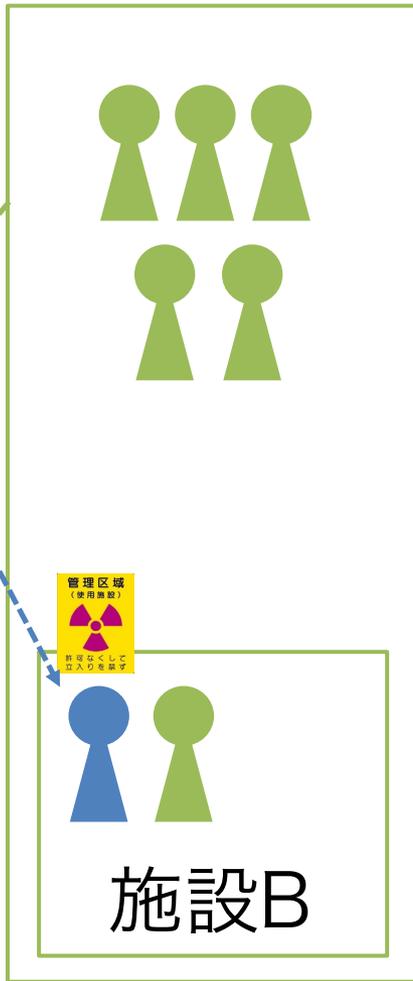
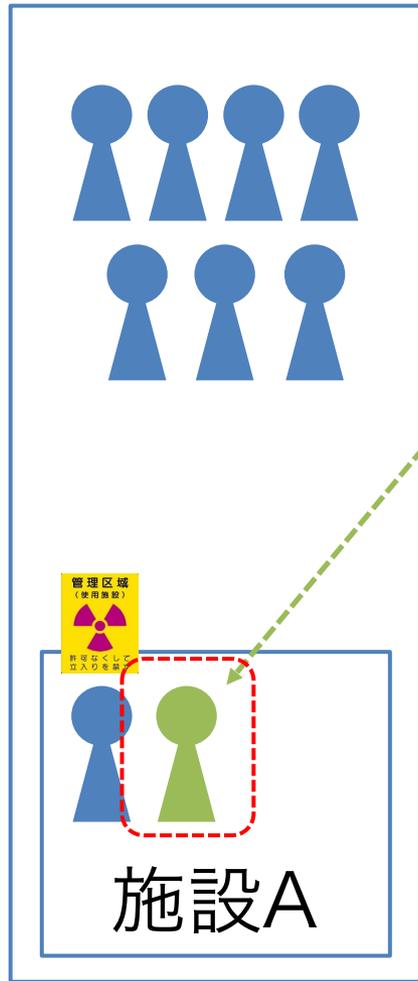


施設の利用者は、その部局に所属する者がほとんどだった。

近年

部局A

部局B



①

組織を越えた  
利用が増えた



この人の管理は、  
部局Aが行う？  
部局Bが行う？  
両方？

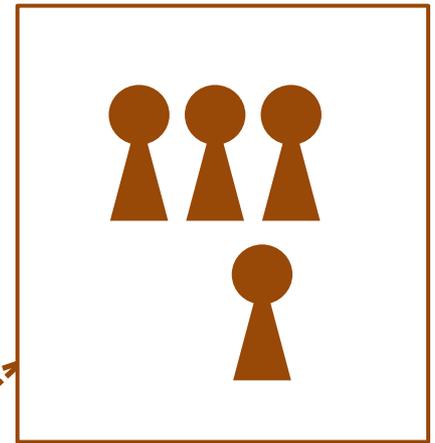
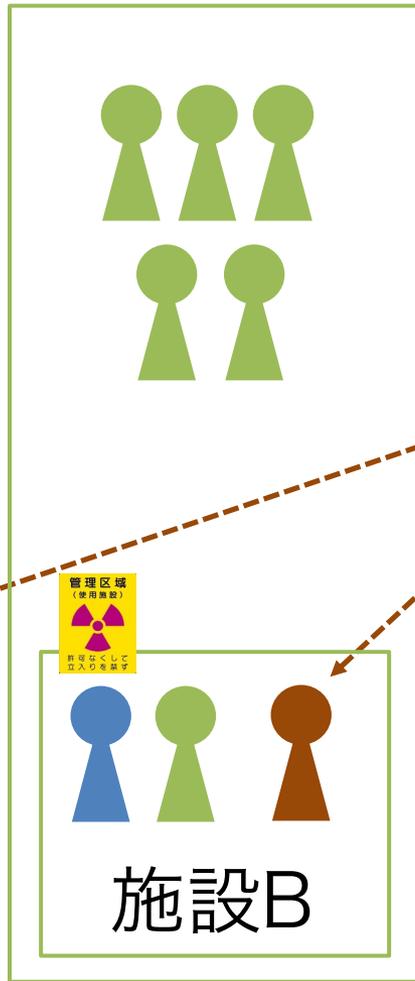
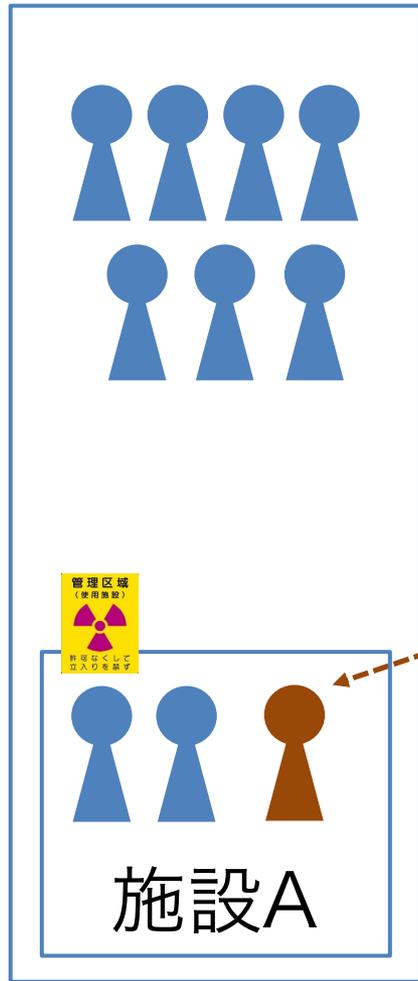
# 放射線施設のない部局

近年

部局A

部局B

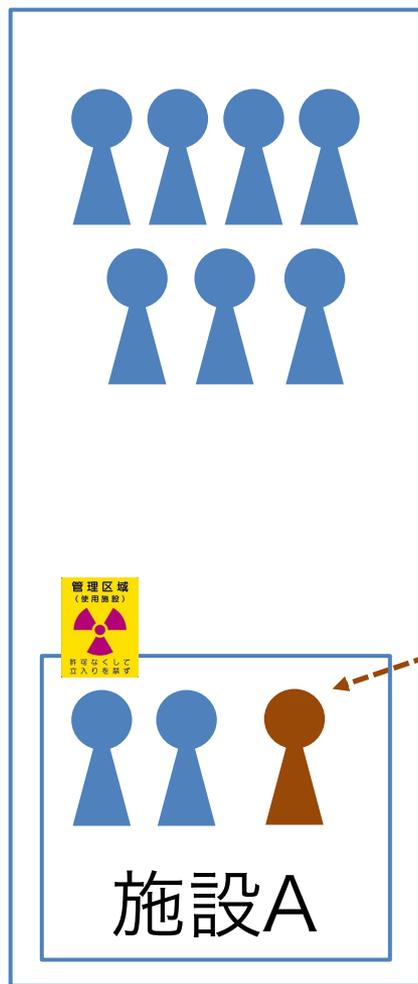
部局C



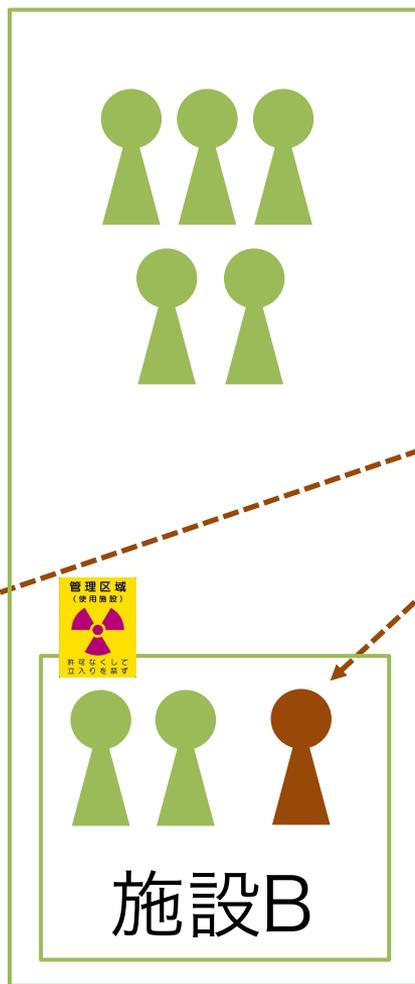
② 放射線施設を有しない部局からの利用者が増加した

# 近年

部局A



部局B

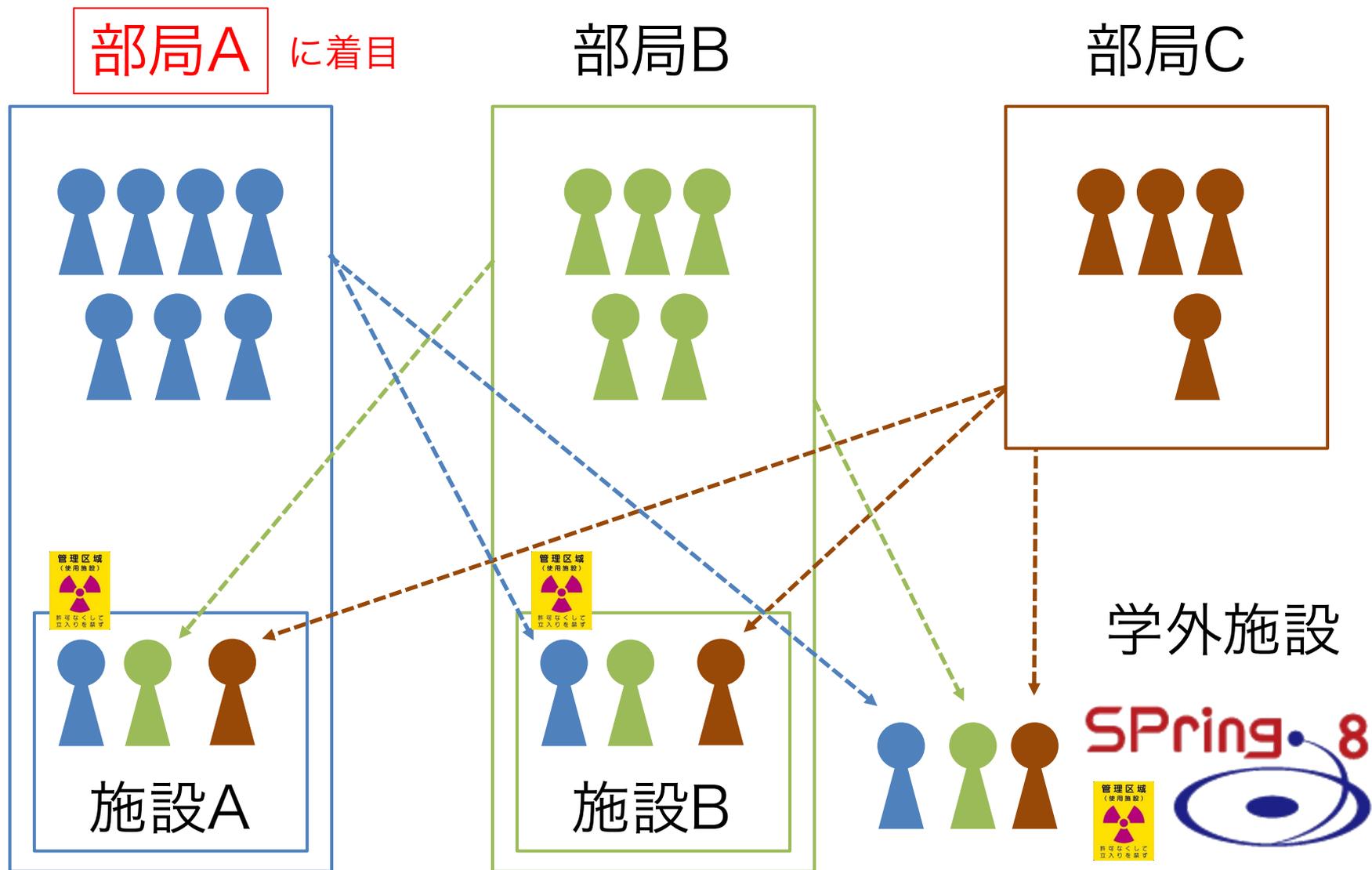


部局C

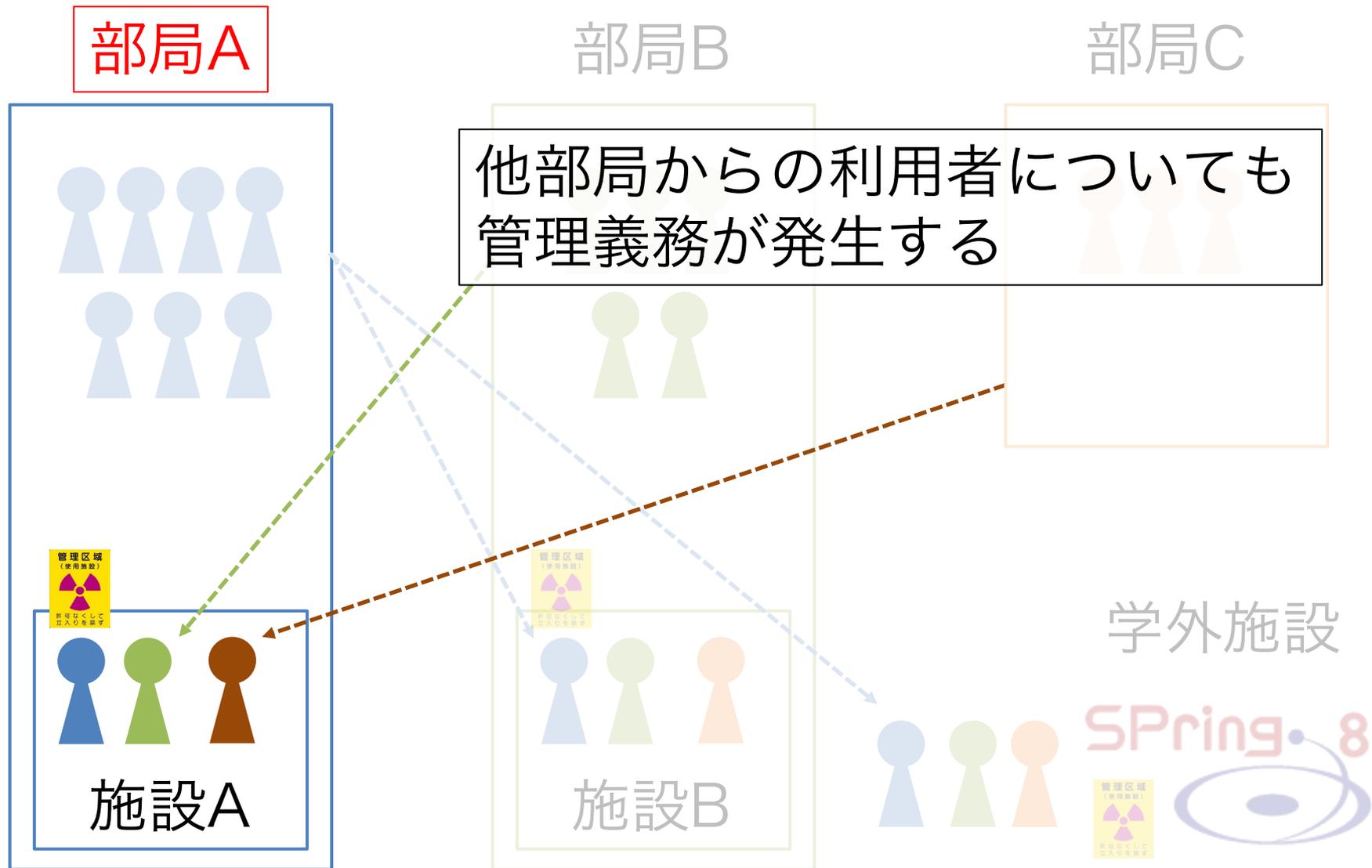


# RI規制法と労働安全衛生法

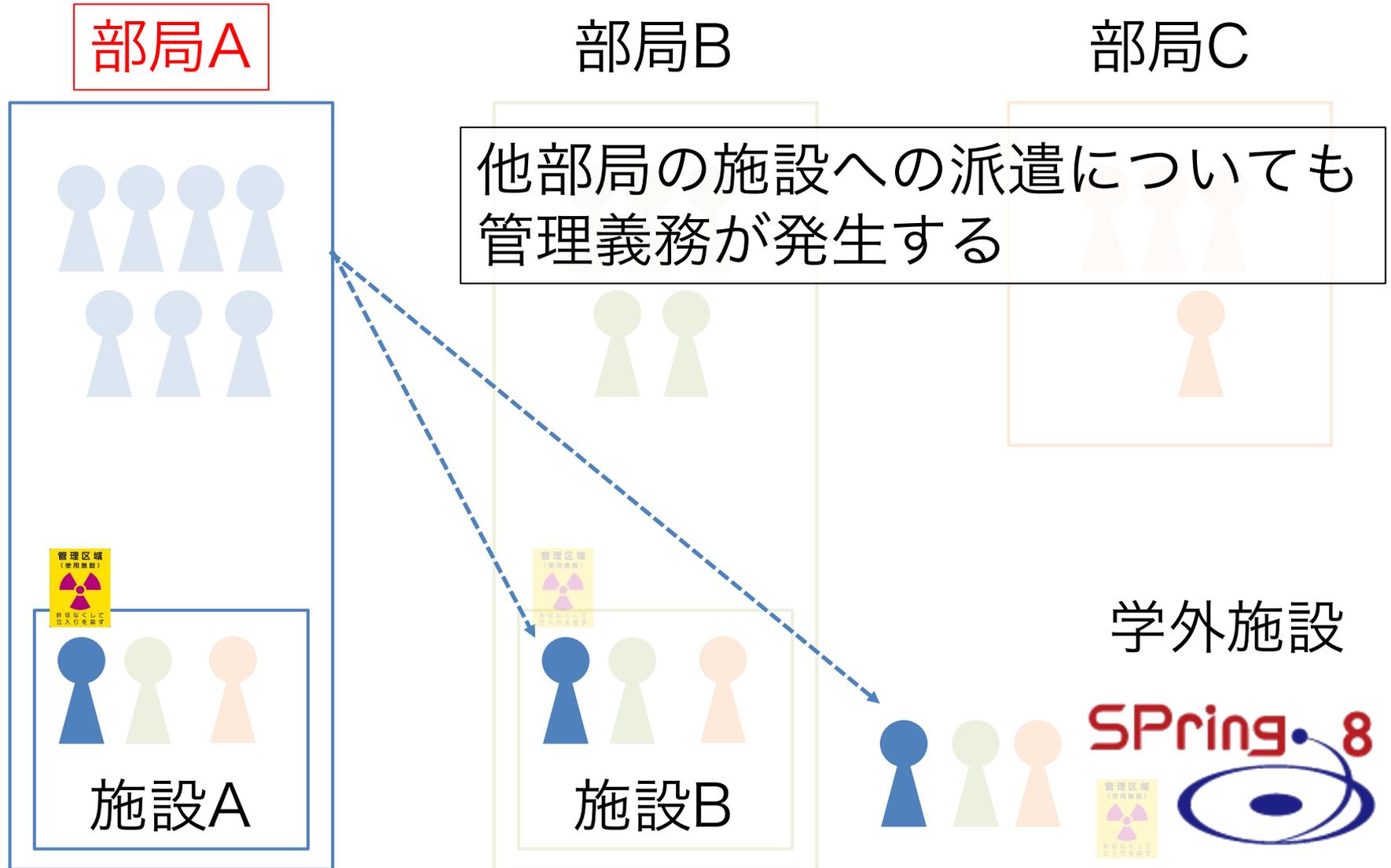
# 複数の部局を利用する研究者の増加



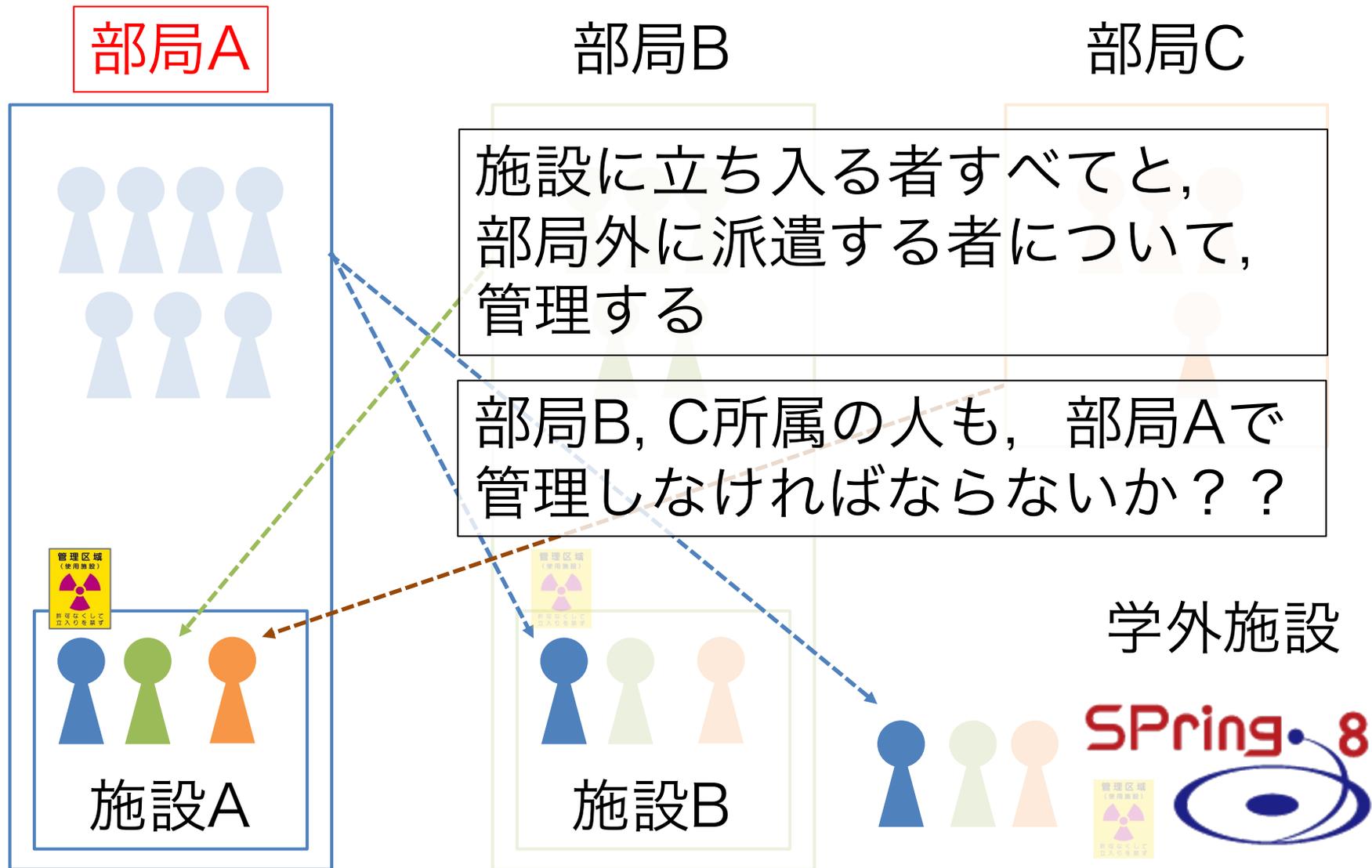
# RI規制法は施設に立ち入る者の管理を要求する



# 労安法は組織に所属する者の管理を要求する



# (RI規制法令＋労安法) が要求する管理対象者



部局B所属の人については、  
原則として所属元(部局B)が従事者管理を行うべき

- ・ 居室が所属元であり、  
部局Bの事務から連絡がとりやすい。
- ・ 個人管理に係る費用は所属元が負担すべき。
- ・ 放射線業務に従事させる責任は所属元にある。

その上で、施設Aは、

部局Bから個人管理情報を取得する

→ RI規制法と労安法の両方の要求を満足できる

- 部局A所属の人の管理は，部局Aが行う。
- 部局B所属の人の管理は，(施設Aを使う場合であっても)部局Bが行う。
- この場合，個人記録は，**被ばく，健康診断，教育訓練**部局Bが施設Aに提供する。

→ これにより，施設Aは，  
他所からAの施設を使いに来る人の個人記録を，  
そろえることができる。

- 部局A所属の人がBの施設を使っている場合も，  
管理は部局Aが行う。
- その場合，個人記録は，**相互利用 / 相互供与**部局Aから施設Bに提供する。

# 従事者管理をする部局と利用施設を分けて考える

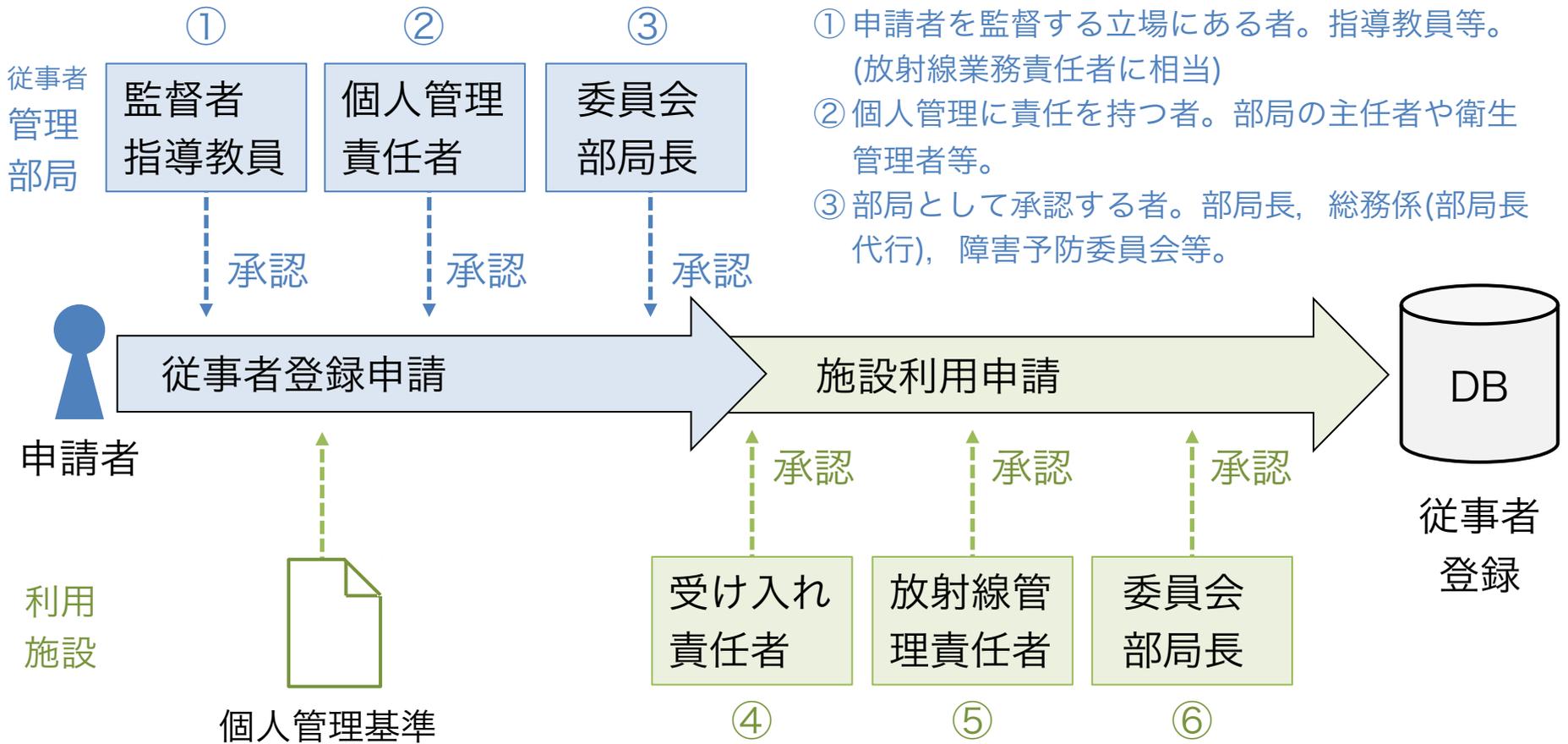
従事者管理部局は、

- ・ 工学研究科
- ・ ○○研究所
- ・ ○○センター

利用施設は、

- ・ 工学研究科RI実験室 (使第930号)
- ・ ○○研究所RI実験施設 (使第2919号)
- ・ ○○センター (使第1231号)

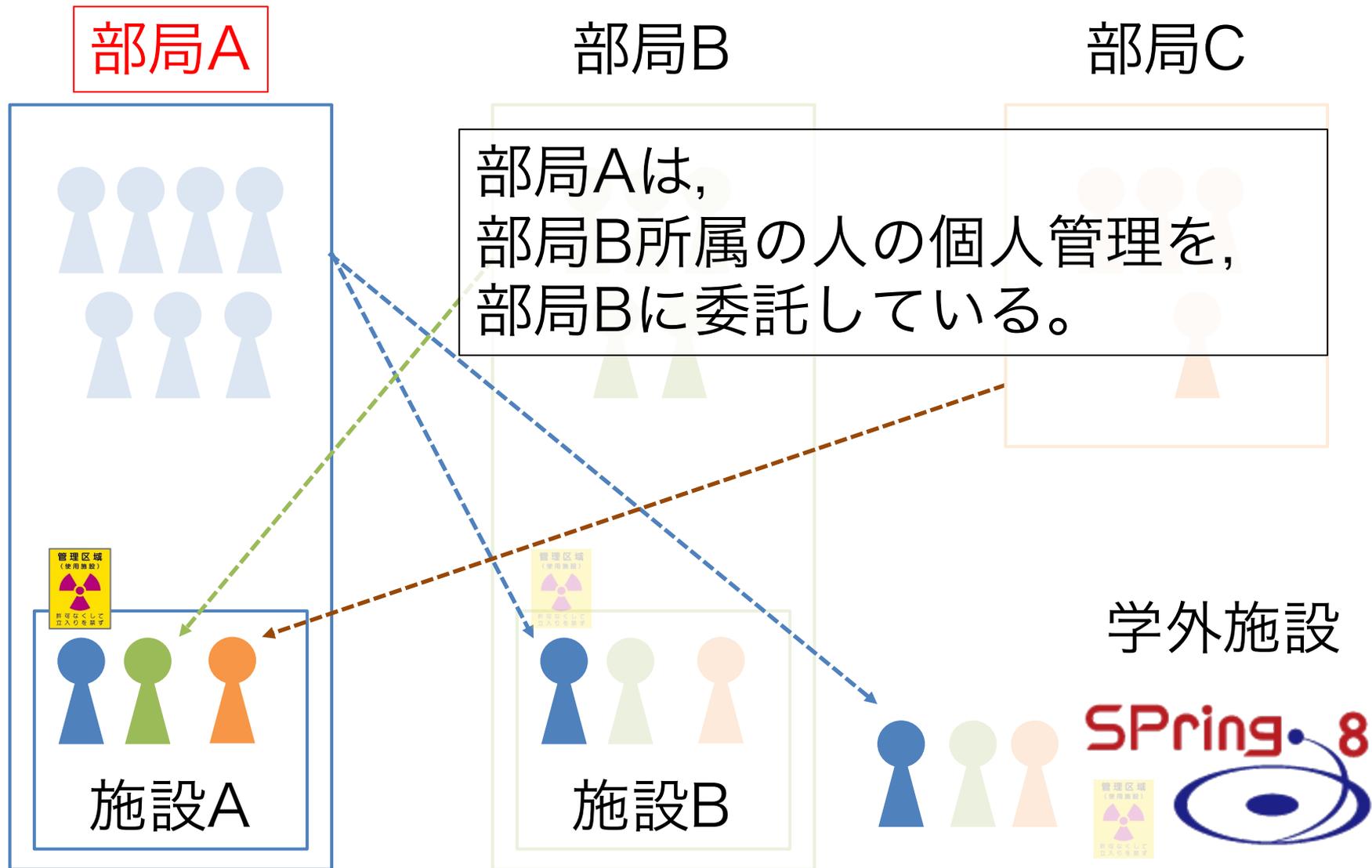
①～⑥は部局の体制に応じて省略可能。



- ① 申請者を監督する立場にある者。指導教員等。(放射線業務責任者に相当)
- ② 個人管理に責任を持つ者。部局の主任者や衛生管理者等。
- ③ 部局として承認する者。部局長，総務係(部局長代行)，障害予防委員会等。

- ④ 一般的には置かないと思われるが、施設によっては受け入れ世話人を置く場合もある。
- ⑤ 施設の放射線管理に責任を持つ者。主任者，放射線管理室等。(放射線安全管理責任者に相当)
- ⑥ 部局として承認する者。部局長，総務係(代行)，障害予防委員会等。

# (RI規制法令＋労安法) が要求する管理対象者



部局Bは、個人管理の委託を受けるにあたって、部局Aがどんな管理を要求しているかを把握しなければならない。

被ばく管理: ガラスバッジの種類(FX/FS/NS)

健康診断: 目の検査は必要?

教育訓練: 項目?

逆に言えば、

委託する方(部局A)は、部局Bに対して、どんな管理が必要かを伝えなければならない。

→ 個人管理基準マスタ

